

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティはいばら(1F・2Fユニット合同)		
所在地	静岡県牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地元の方との交流の場(祭り)イベントに参加し、交流を深めている。 日常生活では利用者様が安心して安全な生活を送れる施設になるよう心掛けている。また、併設しているデイサービスと協力し、読み聞かせ等を外部よりお願いし行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所周辺は田畑が広がり、川沿いには桜や花が咲き、竹藪や茶畑も見え、季節を感じる環境にある。地域密着型サービスの意義を理解し、利用者が個人個人、自分のペースでゆったり生活でき、事故を最小限にし、安心して過ごせるよう支援している。職員同士は仲が良くコミュニケーションがとれていて話しやすい職場であることは職員の聞き取りより確認できた。管理者が変わり、運営推進会議の開催が思うようにできなかったが、今年度は年5回開催し、自治会長や民生委員が参加し、街灯をつけてもらう等の協力体制が少しずつできつつある。大家さんが頻繁に訪れ、畑のミカン狩りをさせてもらい、皆でいただいている。家族にも声かけし、回転ずしへ全員で出かけ、利用者はとても喜んだ。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員がいつでも目につくよう、各フロアに掲示し、実践に繋がられるよう努めている。	事業所の運営理念は会社の理念と同じで、事務所と各フロアの目につく所に掲示してある。職員は各自が理念を意識し職員同士で理念が実践できているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	サンシティ秋祭りに町内会の方々にも参加していただき、地元の祭りにも入居者様が参加され、交流を深めている。	事業所の秋祭りの案内を、スーパーマーケットに貼り、自治会で回覧板を回してもらった。祝日開催にしたことで、住民や子どもたち、自治会長、民生委員等が多数参加し交流をしている。散歩中季節の切り花をいただく等の関係性がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。今後、施設新聞に認知症について等掲載していこうと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況報告やご家族からの要望、質問を聞いたりしている。その場で答えられないものについては次回までに答えられるようにしています。	会議は定期的に全家族に通知し、利用者、家族、町内会長、民生委員、行政や包括が参加して開催している。町内会長から「街灯や側溝、柵の設置」等があり街灯がつけられた。参加者からの意見や指導、要望をサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター・介護福祉課の担当者には相談したり、ご意見をいただいている。	生活保護の報告をするため市の窓口へ訪問している。市内の福祉事業所の連絡会が2カ月に1度勉強会を兼ねて開催され、管理者が参加し職員に口頭や資料の閲覧で知らせ、ミーティングで共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロを掲げている。	新人職員に入社時指導する他、市の研修に参加させている。待ってもらう時には、理由を言い納得してもらうよう指導している。言葉による拘束などはその都度職員同士で注意しあっている。車椅子利用者が前屈みになりやすい時にはクッション等で工夫し拘束しないケアをしている。	

静岡県(グループホームサンシティはいばら 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の状態を観察し、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には文面で通達を行い、面会時には管理者が説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けてご家族の意見を頂けるようにしている。介護相談員の導入で利用者の意見や思いなどを聞いていただいている。	家族からは訪問時に意見を聞いている。「面会届の用紙の記入欄が狭い」「職員の名前が分からない」等、意見、要望はすぐに検討し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員の個人面談を行うなどし、職員の意見を聞き、運営に反映させている。	管理者は職員と気軽に話ができる雰囲気づくりや言いやすい関係を作っている。「押し車、車いす、風呂の椅子、滑り止め、調理器具の購入」等要望をすぐに本部へ依頼し、反映している。代表者は頻繁に事業所を回り直接要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験・実績を踏まえ、必要な研修を受ける機会を設けている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催した講習会に参加したり、市内のグループホーム管理者の集まりを今後予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用し、利用者との関わりを持っていく中で、利用者のニーズに応えられるような関係作りに努めている。また、その都度聞かれた要望等を申し送りし対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会に来られた際には、職員が声を掛け、ご家族の思いや意見を聞けるよう努め、要望に添ったサービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族・入居者と面会をし、どのような支援を望まれていて、利用者にとってどのような支援が必要かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事(掃除・洗濯等)を手伝っていただき、職員と一緒にいる事で関わりを深めている。天気の良い日には散歩に一緒に出掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の悩み・不満が聞かれた際は、ご家族にも相談し、協力し支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事(秋祭りなど)には、地域の方々や馴染みの方々にも参加していただき、利用者・ご家族・地域との関わりを大切にしている。	理美容院や墓参りなど家族と出かけている。今まで使用していた馴染みの化粧品を家族に買ってきてもらうなど支援している。利用者から要望があれば職員と出かけ、買い物で気に入った所があると再度出掛けている。	

静岡県(グループホームサンシティはいばら 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がより良い関係が築けるようサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても相談や依頼には出来る限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の希望や意見・希望を生活の中から見つけだしたり、会話から聞いた情報を活かせるよう努めている。	入居時、家族にフェイスシートを記入してもらい、職員は参考にしている。困難者は顔色や表情を見て判断したり思いに気づく様に努めている。新聞広告を見て出た言葉で気持ちに気づくこともある。気づいたことは申し送りノートに記入し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を集め、面会時にはより多くの情報を得られるよう努めている。また、利用者との会話の中からも情報を得てその人に合った支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、利用者の状態を把握し、状態の変化などがみられた場合は、ミーティングや申し送りで共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・ご家族からのモニタリングを基に、利用者がよりよい生活を送れるような介護計画を作成している。	更新の時には家族に希望を伺い、本人、看護師、かかりつけ医の意見を聞き、介護計画を作成している。内容を家族に説明し確認のサインをもらっている。状態が変化した時は口頭で家族に連絡し、随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は記録に記入し、重要事項に関しては、申し送りノートに記録し、職員全員が把握できるようにしている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況やニーズに柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には出来る限り、職員が同行し、日常の状態を医師に伝え、医師の指示を仰げるよう努めている。	かかりつけ医の受診は基本家族対応だが、難しい場合は職員が対応している。家族対応時には情報を伝え、報告してもらっている。他科受診(歯科)も家族が行けない場合は職員が連れて行く等支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1度利用し、看護師の指示を仰ぎ、適切な受診を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、フェースシートを作成提供し、情報交換に努め、面会に行った際には、看護師と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、担当医を通し、訪問看護を利用する事をあらかじめご家族にも伝え支援に取り組んでいる。	会社の方針として看取りを行い、入居時に緊急時と重度化した時の対応を説明し、同意書をとっている。家族・医師・看護師と出来る範囲と方法の話し合いをし、家族が泊まる事も出来る。緊急時対応マニュアルがあり、看護師の指導を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置は消防署主催の訓練に参加するなどし、実践に繋がられるよう努めている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、訓練を行っている。 地域にも運営推進会議にて協力要請を行っており、都合が合えば訓練にも参加して下さるとのお言葉をいただいている。	夜間、地震と火災を想定(デイの厨房を火元)した訓練を実施している。建物の海拔が高いため、災害時の避難場所としての受け入れが可能なことを地域に伝えている。	マニュアルがあり職員は理解しているが、季節、時間帯などさまざまな想定を定期的な訓練で実践力をつけることを期待します。また地域住民に協力してもらい、一緒に訓練ができるように望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉づかい・対応には十分に注意し、人格を尊重するよう努めている。	呼び名は「さん」が基本だが反応の悪い人に家族の承諾を得て変えている。利用者は人生の先輩であり敬意を払うようにしている。声が大きかったり、言い方がそぐわなかった時にはその場で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人より希望が聞かれた際は、出来る限り、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の希望に添えるよう支援しているが全て希望通りには出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の馴染みの化粧品などでオシャレをするなど自由な恰好で過ごしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるようにメニューを決める際には、利用者の希望も取り入れている。食事時には職員も一緒に食べ、会話をしながら楽しい時間になるよう努めている。	昼食はデイサービスからの配食で、朝夕食は、職員が1週間分のメニューを決め調理し、利用者は食器拭きや前掛けをたたむ等している。利用者の希望を聞き野菜の煮物が中心で行事食は季節を感じるよう工夫している。ドライブでおやつを買って食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供し、水分をとりにくい利用者には、好きな飲み物を提供したりしている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には職員が付き添い、必要に応じ声掛け・支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう、本人の訴え・排泄時間を把握し、トイレ誘導を行っている。	入居前の排泄パターンを把握し、事業所では水分量と排便記録をとっている。自立やポータブル利用、パット使用、二人介助でトイレ誘導する等、利用者の状態にあわせて支援している。パットは利用者にあった物を家族に持ってきてもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、牛乳・ヤクルトを飲んでいただき、適度な運動も行い自然排便できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての利用者本位での入浴支援はできていない。週2から3回程度の入浴支援を実施。	受診と重ならない時間帯に入浴し、希望があれば毎日や夕方・夜等の対応をすることとしている。入浴拒否者には無理強いをしないで声掛けを工夫して入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも利用者が休みたい時は休んでいただけよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、利用者が何の薬を服用しているかの把握に努め、服薬時・服薬後の変化の気づきに注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の負担にならない程度に仕事を手伝っていただくなどしている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそっての外出・散歩は出来ていないが、出かけられるよう努めている。外食にはご家族にも参加していただいている。	利用者は車椅子を押し事業所近隣を散歩し、近隣の人に花をもらい、持ち帰って事業所に飾っている。結婚式や法事、葬儀等には出席できるように支援している。家族と外食したり、外泊や正月自宅へ帰る人がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金の所持はしていない。施設側で管理している。利用者と一緒に買い物に出かけた際には、希望の物を選んで購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご家族とは電話で話す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出の際の写真等を利用者の目の届くところに掲示している。温度の調節、ブラインドによる光の調節等その日の天候等に合った対応をするよう努めている。	階段には桃の花やひな人形の切り絵、利用者の塗り絵があり、季節を感じられるようにしている。廊下には外出時の写真が掲示されている。職員はテーブルや手すり、ドアノブ等消毒して感染症対策を行っている。フロアの掃除は利用者も参加する。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど利用者同士が気軽に話ができて、くつろげる空間になるよう気配りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みのものを使用いただき、本人の落ち着く空間づくりに心掛けている。	ベッド・カーテン・クローゼットが備えつけられている。机にもなる棚の使用方法にその人らしさが表れ、使い慣れたタンスやぬいぐるみが置いてある。色鉛筆や編み棒や針等が持ち込まれている。壁には趣味で描いたぬり絵や写真が飾ってあり暖かな雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの位置関係や利用者の身体レベルに合わせた居室の提供に心掛け、自立を目指した環境作りに気を配っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティはいばら(1F・2Fユニット合同)		
所在地	静岡県牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元の方との交流の場(祭り)イベントに参加し、交流を深めている。
日常生活では利用者様が安心して安全な生活を送れる施設になるよう心掛けている。また、併設しているデイサービスと協力し、読み聞かせ等を外部よりお願いし行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員がいつでも目につくよう、各フロアーに掲示し、実践に繋がられるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サンシティ秋祭りに町内会の方々にも参加していただき、地元の祭りにも入居者様が参加され、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。今後、施設新聞に認知症について等掲載していこうと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況報告やご家族からの要望、質問を聞いたりしている。その場で答えられないものについては次回までに答えられるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター・介護福祉課の担当者には相談したり、ご意見をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロを掲げている。		

静岡県グループホームサンシティはいばら 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の状態を観察し、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には文面で通達を行い、面会時には管理者が説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けてご家族の意見を頂けるようにしている。介護相談員の導入で利用者の意見や思いなどを聞いていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員の個人面談を行うなどし、職員の意見を聞き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験・実績を踏まえ、必要な研修を受ける機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催した講習会に参加したり、市内のグループホーム管理者の集まりを今後予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用し、利用者との関わりを持っていく中で、利用者のニーズに応えられるような関係作りに努めている。また、その都度聞かれた要望等を申し送りし対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会に来られた際には、職員が声を掛け、ご家族の思いや意見を聞けるよう努め、要望に添ったサービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族・入居者と面会をし、どのような支援を望まれていて、利用者にとってどのような支援が必要かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事(掃除・洗濯等)を手伝っていただき、職員と一緒にいる事で関わりを深めている。天気の良い日には散歩と一緒に掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の悩み・不満が聞かれた際は、ご家族にも相談し、協力し支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事(秋祭りなど)には、地域の方々や馴染みの方々にも参加していただき、利用者・ご家族・地域との関わりを大切にしている。		

静岡県グループホームサンシティはいばら 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がより良い関係が築けるようサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても相談や依頼には出来る限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の希望や意見・希望を生活の中から見つけだしたり、会話から聞いた情報を活かせるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を集め、面会時にはより多くの情報を得られるよう努めている。また、利用者との会話の中からも情報を得てその人に合った支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、利用者の状態を把握し、状態の変化などがみられた場合は、ミーティングや申し送りでも共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・ご家族からのモニタリングを基に、利用者がよりよい生活を送れるような介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は記録に記入し、重要事項に関しては、申し送りノートに記録し、職員全員が把握できるようにしている。		

静岡県グループホームサンシティはいばら 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況やニーズに柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には出来る限り、職員が同行し、日常の状態を医師に伝え、医師の指示を仰げるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1度利用し、看護師の指示を仰ぎ、適切な受診を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、フェースシートを作成提供し、情報交換に努め、面会に行った際には、看護師と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、担当医を通し、訪問看護を利用する事をあらかじめご家族にも伝え支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置は消防署主催の訓練に参加するなどし、実践に繋がられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、訓練を行っている。 地域にも運営推進会議にて協力要請を行っており、都合が合えば訓練にも参加して下さるとのお言葉をいただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉づかい・対応には十分に注意し、人格を尊重するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人より希望が聞かれた際は、出来る限り、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の希望に添えるよう支援しているが全て希望通りには出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の馴染みの化粧品などでオシャレをするなど自由な恰好で過ごしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるようにメニューを決める際には、利用者の希望も取り入れている。食事時には職員も一緒に食べ、会話をしながら楽しい時間になるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供し、水分をとりにくい利用者には、好きな飲み物を提供したりしている。		

静岡県グループホームサンシティはいばら 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には職員が付き添い、必要に応じ声掛け・支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう、本人の訴え・排泄時間を把握し、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、牛乳・ヤクルトを飲んでいただき、適度な運動も行い自然排便できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての利用者本位での入浴支援はできていない。週2から3回程度の入浴支援を実施。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも利用者が休みたい時は休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、利用者が何の薬を服用しているかの把握に努め、服薬時・服薬後の変化の気づきに注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の負担にならない程度に仕事を手伝っていただくなどしている。		

静岡県グループホームサンシティはいばら 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそっての外出・散歩は出来ていないが、出かけられるよう努めている。外食にはご家族にも参加していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金の所持はしていない。施設側で管理している。利用者と一緒に買い物に出かけた際には、希望の物を選んで購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご家族とは電話で話す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出の際の写真等を利用者の目の届くところに掲示している。温度の調節、ブラインドによる光の調節等その日の天候等に合った対応をするよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど利用者同士が気軽に話ができ、くつろげる空間になるよう気配りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みのものを使用いただき、本人の落ち着く空間づくりに心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの位置関係や利用者の身体レベルに合わせた居室の提供に心掛け、自立を目指した環境作りに気を配っている。		